

2011年12月刊行予定

ブルーノ・タウト

都市の冠

すぎもと としまさ
杉本 俊多 訳

B5判上製カバー装 本文176頁 挿図83点 定価4,200円（本体 4,000円＋税）

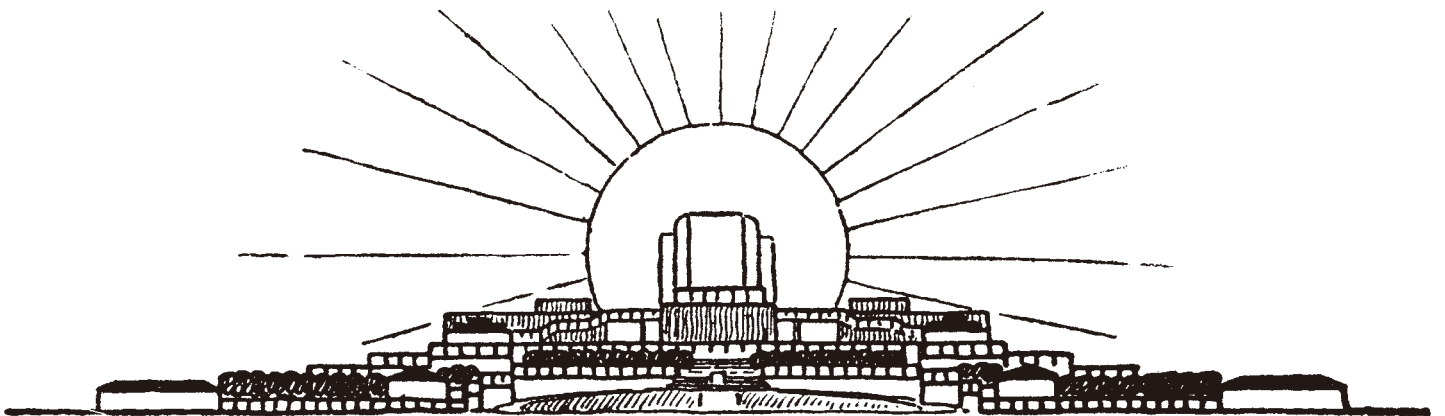
ISBN 978-4-8055-0676-9 C3052

ブルーノ・タウトが、建築・都市に関する自らの論文と設計案を中核としつつ、3人の支持者の文章を加え、独特の編集を行った、作品とも言える書籍。邦訳にあたっては、タウトによる原著の構成を忠実に再現した。

タウトは自らの文章と設計案を中核としつつ、その考えを支持する他者の文章を加えて編集構成した。もっともその3人のうちのひとり、表現主義の詩人、また一種のSF小説家であったパウル・シェーアバルトはすでに死んでいた。彼は、実際には偶然の病死だったとされてもいるが、戦争が始まるとすぐに反戦抵抗運動を始め、ハンストを執行して命を落としたとされていた。タウトは1914年のドイツ工作連盟展の「グラスハウス」の設計に携わっていた際にシェーアバルトに出会って意気投合することとなった。たまたまシェーアバルトは未来的な建築像としてガラス建築に夢を託し、著作を準備していて、建築の専門技術者に意見を聞こうとしていたのだった。タウトは以前からシェーアバルトの著作に惹かれていたと思われるが、彼の劇的な死に衝撃を受け、その著書を読み深めつつ次第に彼の平和思想に同調していったように思われる。そして『都市の冠』の扉には「平和を求める者へ」という一句が掲げられ、かつ書籍の冒頭と末尾にはシェーアバルトが建築を題材として書き、すでに出版してあった二つの詩が収められたのである。

『都市の冠』は終戦後、どのような未来像が立ち現れるべきか、描きあげることによって、人々を新しい社会に導こうとするものだった。そこに宇宙的な規模でユートピア的な未来社会像を提示していたシェーアバルトの存在は、思索の出発点をなしてくれた。そして建築家であるタウト自身は、得意とする設計技術によって具体的な未来の都市像を提示し、残る執筆者ふたりにはそれぞれの得意とする分野から援護射撃をしてもらうことを期待したようである。タウトとこのふたりの間では、個別に議論が深められたものと推察され、設計案や文章のそこそこにその連携の痕跡を見出すことができる。たとえば、いずれの文章にもシェーアバルトを参照する句が見られ、おそらくタウトが、シェーアバルトの未来的な小説が持つ平和主義をこの書籍の土台にしたいとする考えをはっきりと提示していたものと思われる。

（「訳者あとがき」より）



建築は芸術であり、かつ最高の芸術でなければならない。それはある強い感情から発生し、ただ感情に対して語りかける。頭脳はせいぜい調整役をなすだけであり、建築そのもの、その内奥の本質は心から咲き誇るものであり、私たちは心だけに語らせねばならない。（本書「都市の冠に向けた新しい試み」より）

ブルーノ・タウト Taut, Bruno (1880～1938)



ドイツの建築家。シュトゥットガルトでT・フィッシャーについて建築を学ぶ。1914年にケルンで開かれたドイツ工作連盟展にガラスの家を建てて注目される。1920年を中心とする表現主義運動のなかで、ラディカルな提言を通して意欲的に活動し、その間マグデブルク市の建築参事官（1921～24）、ベルリン工科大学教授（1930）を務める。1933年日本に招かれ、仙台、高崎において地方産業の近代化に助言を与えた。また、桂離宮など日本文化の魅力を世界に広めたことでも知られる。1936年に日本を去り、トルコのイスタンブールの美術アカデミー教授となったが、同地で没。

訳者

杉本俊多（すぎもと・としまさ）

広島大学大学院教授。西洋・近代建築史専攻。

1950年、兵庫県生まれ。1972年東京大学工学部建築学科卒業。1975～77年にカールスルーエ大学、ベルリン工科大学に研究留学。1979年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。工学博士。1999年、日本建築学会賞受賞。

著書に『バウハウス—その建築造形理念』（鹿島出版会、1979）、『建築の現代思想』（鹿島出版会、1986）、『ドイツ新古典主義建築』（中央公論美術出版、1996）、『二〇世紀の建築思想』（鹿島出版会、1998）など。訳書に、ヘルマン・G・プント著『建築家シンケルとベルリン』（中央公論美術出版、1985）など。

目次

新しい生

— 建築の黙示録（パウル・シェーアバルト）

40例

— 歴史的な都市の冠

都市の冠

建築／古都／混沌／新都市／頭なき胴体／旗を与えよ／都市の冠／都市の冠の経済的側面／都市の冠に向けた新しい試み—あとがき

再構築（エーリッヒ・パロン）

建築芸術の再生（アドルフ・ベーネ）

生命なき宮殿

— ある建築家の夢（パウル・シェーアバルト）

出典／図版リスト

訳注／訳者あとがき／付録 各著者についての概説

中央公論美術出版刊行 ブルーノ・タウトの本

新しい住居 つくり手としての女性

斉藤 理 訳

B5判カバー装 本文104頁

定価2,625 円（本体2,500円＋税）

女性読者を対象として、煩雑な家事作業をいかに合理的に整理・機械化し、負担を軽減できるかを建築的視点から説く、建築家タウトの住宅論を理解する「概説編」。

ISBN978-4-8055-0473-4 C3052

一住宅

斉藤 理 訳

B5判カバー装 口絵8頁 本文138頁

定価3,675 円（本体3,500円＋税）

ブルーノ・タウトがベルリン郊外に計画した自邸の設計プロセスを事細かに解説。新しく原書にはない彩色図版・写真を口絵に付した、建築家タウトの住宅論の「実践編」。

ISBN978-4-8055-0474-1 C3052

中央公論美術出版

<http://www.chukobi.co.jp>

〒104-0031 東京都中央区京橋 2-8-7

TEL 03-3561-5993 FAX 03-3561-5834

お取り扱いは